



八峰白神ジオパーク構想マーク



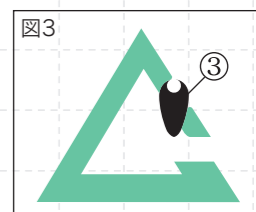
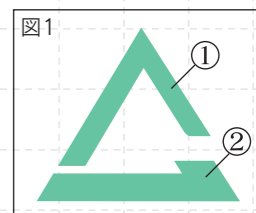
白神山地と日本海

ロゴマーク

上のマークは八峰白神ジオパーク構想のマークです。このデザインは町内の方に作っていただきました。今回はこのロゴマークについて紹介をしていきたいと思います。(ページの都合上、本来のマークと違った色で印刷されています。ご了承ください。)

このマークは当地域にまつわる様々なものをイメージしてデザインされています。まずマークの骨格となっている三角形の部分から見えていきましょう。この三角形を下図1のように①と②に分解してみます。①の部分は険しく切り立った「白神山地」、②の部分は「日本海」を表現しています。ちょうど上の写真のようなイメージです。どちらも八峰町を語る上で欠かせないもので、この二つを合わせて「白神を中心とした八峰町の地形、生態系」などを表現しています。これらの部分は山と海それぞれの色合いをイメージした深い青色です。それから、この形はアルファベットの「G」の文字でもあります。ジオパークは英語では「Geopark」と書きますので、その頭文字「G」の形にデザインされています(下図2)。

次に、丸みを帯びた部分(下図3③)を見てみましょう。この部分は本来は赤い色で着色されている部分で、地下にあると考えられる「マグマ」を表現しています。当ジオパーク構想では「白神山地はなぜ高い?」ということの研究テーマに掲げています。高い理由は、地下にあるマグマが下から大地を押し上げてきているからではないかという考えのもと研究しています。このマグマには、白神山地をはじめとした八峰町の大地の形成に関わっている火山活動が表現されています。



もっぴとっ隠されています

ジオパークは日本語にすると「大地の公園」となります。公園はみんなが楽しむ場所です。つまり、ジオパークとは楽しい場所を作りあげていく活動のことなのです。その舞台となるのは私たちが住んでいるこの地域です。活動を支えていくには専門家だけでなく、地域の方々の力がとても重要となってきます。

もう一度、上のマークを見てください。よく見ると、人の横顔(右を向いている)に見えませんか?これには、「ジオパークに大切なのは、地質・地形だけではなく、場所づくりに携わる「人」なのだ」という思いが込められています。当地域では皆さんと活動を進めていけるよう現在いろいろなことを検討中です。

日本ジオパークネットワークのホームページでは、認定地域のマークを見ることが出来ます。各地域の想いが込められたマークを見比べて見るのも面白いかもしれませんね。

八峰白神ジオパーク推進協議会

事務局 神垣恭彦

八峰白神ジオパーク推進協議会

秋田県山本郡八峰町

峰浜田中字野田沢20-1 峰栄館2階

TEL 0185-701-3881

中頓別町から視察団が来町しました

ジオパーク構想地域の視察

先日、北海道の中頓別町から視察団が訪れ、八峰白神ジオパーク構想地域を視察していかれました。中頓別町には北海道指定天然記念物にもなっている中頓別鍾乳洞を中心とした地質資源があります。地域活性化のため、その地質資源を活かしジオパーク構想に取り組みようになったそうです。同じように小さな町ながらジオパークに取り組んでいる八峰町がどのような活動をしているのか参考にしたいくことで来町されました。その時のご報告とあわせて、皆様にも私たちの取組みの目的などを紹介したいと思います。

町内のジオポイントを見学

午前中に、あきた白神体験センターでの意見交換会を終えたあと、町内を案内しました。まず町内の食堂でしよつる鍋を食べていただきました。八峰町で美味しいハタハタがとれるのは白神山地の成り立ちが関係しているという説などを紹介しながら、地域の味や食文化に親しんでいただきました。しよつる鍋の味は大変好評だったようです。



ぶなつこランドにて白神山地の説明

このように地質・地形に着目しながら町を巡ってみると、それにあわせて地域の自然・生態系、食文化、歴史(宗教・産業)など様々な面も見えてきます。わたしたちはジオパークのことを「うちの地質はすごいぞー」といつて珍しい岩石や地質だけを目玉にどっと人を集める企画とは考えていません。楽しみながら地質への理解を深め、地域のこと全体への理解を深める、地域を知ることが出来る、そのような場所がジオパークだと考えています。

地域を知る



白神のスフィンクスを望む



おらほの館で地域の食材見学

「地域を知る」ことによって、住民は地域への愛着が増すことが期待されますし、観光客の方々は町のことを深く味わえるでしょう。最近の観光は、景勝地を見に行くことを目的とした「物見遊山型」から、ゆつくりと過ごし住民との交流を楽しむことなどを目的とした「滞在型」へと需要が移ってきていると言われています。住民が地域のことを知り、お客さんとの交流のなかでその良さを味わってもらえることができるような地域は滞在型観光に理想の場所ではないでしょうか。

小さな町のジオパーク

地質・地学の研究者の力と、地域のことを良く知る人たちの力を合わせることで、地域にすでにあるものを活用して魅力にすることが出来ます。ですから小さな地域では小さな地域なりのやり方でジオパークに取り組むことが出来ます。このような考えのもと活動していることを紹介しながら視察団の方々をご案内させていただきました。解散前には、小さなジオパークとしてお互いが推進活動に励んでいくことを誓い合いました。お互いが日本ジオパークへ認定されたときには姉妹ジオパークのようなつながりもできるかもしれません。